

松山市防災センターでの新入職員研修について

総務部 総務課 河野 桂治



4月に新入職員34名(看護師、薬剤師、放射線技師、栄養士、事務員)が入職し、まだ慣れない環境のなかで苦労しながらも日々奮闘しているところです。

当院の新入職員研修ではプログラムの一環として防災講習を毎年受けており、今年も7月4日に松山市防災センターへ向かいました。

講習では初めに、近年発生した災害情報について確認しました。自然災害(地震、津波、洪水、土砂崩れ)と人的災害(火災)とに分類し、それぞれの特徴や備え、避難方法について学びました。

続いて消火体験を行いました。消火器を安全・確実に扱うための方法を学んだ後、訓練用消火器を用いて体験します。消火の前に「火事だ!」と声をあげ、周囲に知らせた後に放射します。

最後に避難訓練です。煙が充満した薄暗い部屋から、非常口誘導灯を頼りに次々とドアを開け進めていき、出口を目指します。煙のスピードは想像より早いことから、姿勢を低くし、落ち着いて素早く避難することが大切です。

災害時の具体的行動策を講習や疑似体験を通して学ぶことで、防災意識が高まったこと、併せて医療現場でも活かせる事例が多数あると感じました。

愛媛県は災害が少なく気候が温暖であるといわれていますが、昨今の気候変動による大雨や台風、地震による自然災害が頻発・激甚化していることから、決して他人事ではありません。とりわけ医療従事者である私共にとって、自身や家族の安全を守ることはもとより、患者さんの命を守ることも大切です。

今回の講習をきっかけに、病院での定期的な防災訓練を通してスキルを高めてゆき、非常時には適切に対処できるよう取り組んでまいります。



ボランティア「しらさぎ白鷺」通信

医療社会活動室長 井上 より子



パラソルのあるベンチも人気です



タープテントは皆の憩いの場になっています

緑に囲まれた“癒し”

コロナ禍で密を避けるため患者さんやご家族が、待ち時間等の合間に中庭テラスで過ごす事が増えてきました。そのため、日差しが強い日でも快適に過ごせるように日よけテントを設置しています。

患者さんやご家族から「これまでテントがなく日差しが気になって外に出にくかったが、いつでも座って休める」「緑の中で風が気持ち良い」「蝉が鳴いて自然がいっぱい」「高級リゾートホテルのプールサイドのようでかっこいい」など、とても好評をいただいております。

人間と自然の関係性の調査では「新型コロナウイルスによって遠出などが難しくなる中、近場の公園に足を運び自然に親しむ場面が増えていて、緑に囲まれた人の心身には、好影響が及ぶ」と、科学的に明らかになりつつあるそうです。

緑に囲まれた中庭テラスは、四季折々の自然を感じ心が安らぐ「癒やし」の場所として、皆様に愛着を深めてご利用いただけるよう、今後も工夫ができればと思っています。



テントは晴れた日に設営しています



ひまわりも綺麗に咲きました



コスモスのまえでパシャリ☆